

カデットプログラム第3回国際シンポジウムに参加して

2017年の6月8日から9日の2日間にわたり、大阪大学豊中キャンパスの大阪大学会館にて、カデットプログラム第3回国際シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、博士課程教育リーディングプログラムの一つである“インタラクティブ物質科学・カデットプログラム”の一環として行われ、カデット履修生が主体となっており、講演のプログラム・要旨集作成から会場運営までを手掛けているのが大きな特徴となっています。今年で3回目ということで、比較的歴史の浅いシンポジウムではありますが、会場には高級感が漂い、優れたデザインのプログラム冊子と円滑な司会・進行も相まって、大規模な国際会議さながらの洗練された雰囲気がありました。

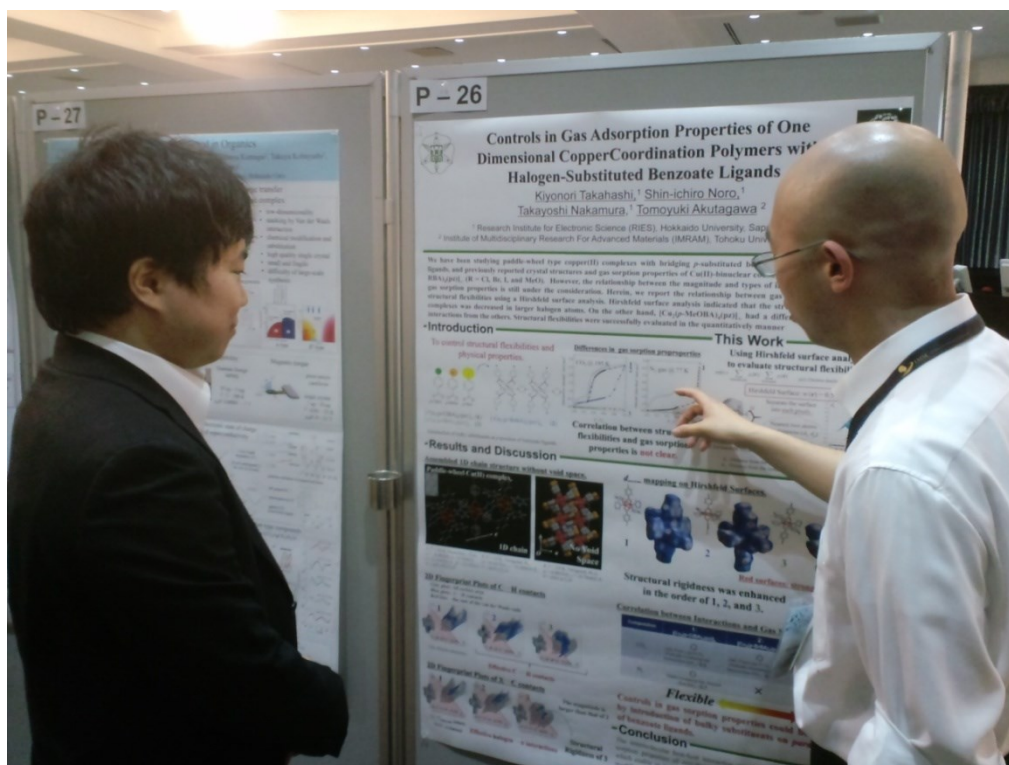
今回のシンポジウムでは、「Research Which Aims to Resolve Global Problems」をテーマに、「環境」「エネルギー」「物質資源」「健康と医学」など、多分野にわたる研究者を企業・アカデミア問わず招待していたこともあり、普段は耳にしないような貴重なお話を聴くことができました。科学技術が社会へと還元されていく過程には、基礎研究によってもたらされる新物質・新現象の発見と理解から、研究開発、生産へと、さまざまなステップが含まれていますが、今回のシンポジウムにおいても、独創的かつ成長段階にある基礎研究から、成熟した技術を社会に還元していこうとする研究まで、さまざまな段階にある研究領域がバランスよく配置されていたと思います。私にとっては、長期的な視点に立って、自身の属する研究分野の将来的な展望を考えるための良い機会となりました。また、講演の拝聴のみならず、質疑応答を通して双方向の活発な議論が行われていたことが印象に残っています。特に、カデット履修生の議論に対する積極的な姿勢と、英語を用いたコミュニケーション能力の高さには深い感銘を受け、私自身も頑張らなくてはという気持ちを抱きました。

当センターからは特任研究員の私とD3の野口さんが、中澤研究室からはD3の今城さんとM2の野本さんが、また私の前任者である北海道大学の高橋仁徳さんがポスターセッションに参加し、発表を行いました。4月に大阪大学に赴任してから初めての発表の場であり、博士課程での研究について報告させていただきましたが、活発な議論ができたと思います。また、知り合いの方々が思いのほか多く、研究領域は広範でありながら、人とのつながりは緊密であることを実感しました。1日目の夜にはバンケットが行われ、ビールを飲みながらたくさんの方々とお話をし、この日のために用意した名刺を無事配りきることができました。

今回のシンポジウムは、私の赴任直前の3月10日に、高橋さんよりお誘いを受けて参加したのですが、講演内容は興味深く、多くの方ともお知り合いになれたので、参加して本当に良かったと思います。高橋さん、ありがとうございました。

最後に、当センターの特任助教(兼)である鈴木さんとカデット履修生の今城さん・野本さんは、今回のシンポジウムの運営に携わっており、早朝から夜までとても忙しそうでした。鈴木さん、今城さん、野本さん、おつかれさまでした。そして、このような素晴らしいシンポジウムを開いてくださりまして、ありがとうございました。来年もぜひ参加したいと思います。

(堀井洋司)



ポスターセッションで議論に花を咲かせている今城さん(左)と高橋さん(右)